

故深津比佐夫博士追悼号の刊行に際して

平成9年11月13日、68歳の定年退職を目前にしながら、忽然として逝去された深津比佐夫博士を哀悼し、謹んで先生の御霊前に『故深津比佐夫博士追悼号』を捧げます。

先生は、研究面では関西学院大学の会計学の礎を築かれた故青木倫太郎先生の門下生として、関学会計学を継承し、その発展に尽力されました。とりわけ、ご専門である財務会計の研究に心血を注がれ、その成果は先生の博士学位論文『近代財務会計論』に集大成されています。また、先生は、この分野での学会における目覚ましいご活躍のかたわら、各種経済団体から委嘱された数多くの仕事に対しても、誠意を持って応えられました。

一方、戦後の関西学院の歴史を身をもって駆け抜けてこられた深津先生にとって忘れ得ぬ出来事はあの昭和40年代の大学紛争の嵐であったでしょう。関西学院存亡の危機という状況のなか、学生副主任として身を挺してその解決に奔走されたお話はあまりにも有名ですが、この頃のご無理が先生のご健康を蝕んでいたのではないかと想われてなりません。その後も学生主任、学部長室委員の役職を歴任され、学部運営に多大な貢献をしていただき、また産業研究所評議員を4期勤められました。

先生のご退職を記念して出版の計画が進められていた記念号が、突然このような「追悼号」となってしまったのは痛恨の極みです。

先生の一生そのものであったと思われる関西学院大学商学部として、ここに先生に心からなる敬意と感謝をこめて、第46巻第2号を追悼号として発刊いたします。終わりに、この記念号のためにご執筆およびご寄稿下さった諸先生方に厚くお礼を申し上げます。

平成10年12月10日

商 学 部 長 今 井 讓